

## 切り花の日持ち実験結果

### 1. 目的

花は様々な魅力があり、日持ち性だけが商品の価値を決めるものでは御座いませんが、消費者に対する切り花についてのアンケート結果(※注1)によると、「日持ちの良い花をほしい」、「どのくらい日持ちするのか知りたい」など、購入後の観賞期間についての関心が高いことが分かりました。

日持ちに関しては、過去に様々な調査、実験が行われていますが、主要な流通品目や季節ごとの状況に応じた実験が必ずしも行われていなかったため、消費者に対する情報提供も不十分な状況でした。特に日持ち実験に関して、現在、最も標準的な実験方法とされている「切り花の日持ち評価レファレンステストマニュアル」(5. で記載)では、日持ち実験の温度条件が季節を通じて一定となっており、消費者が家庭において切り花を観賞することを想定した場合には、この実験結果だけで日持ちを判断することは難しいと考えられます。

そこで、農林水産省生産局花き産業振興室では、(独)農業・食品産業技術総合研究機構花き研究所での実験結果に基づき、消費者が切り花を購入してから、実際にどの程度日持ちするのかという視点から四季に応じた品目や環境条件などを設定し検証を行いました。

ちなみに一般的に使われている言葉で「日持ち」と「花持ち」は同じ意味を指すものです。

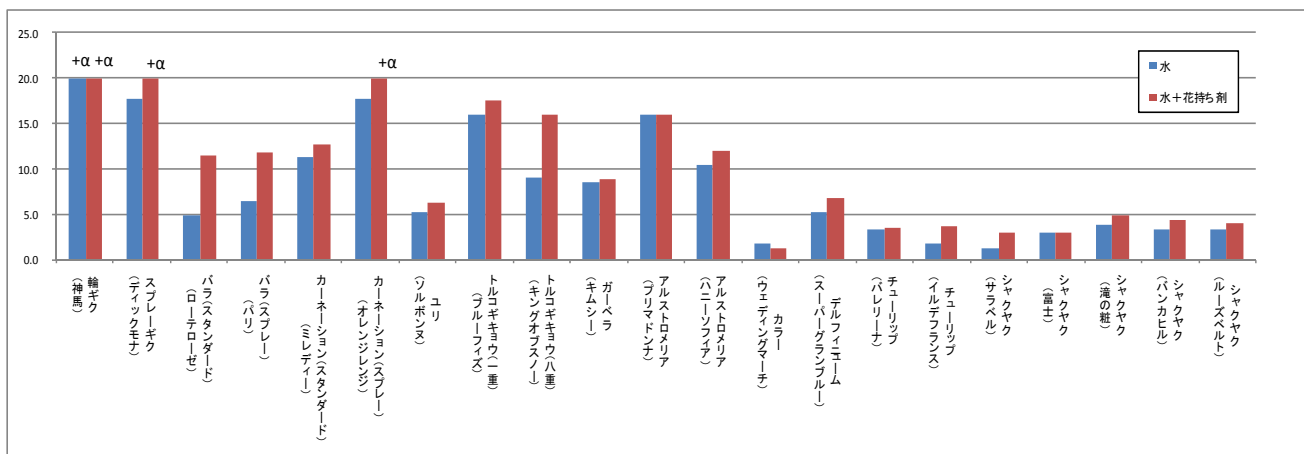
※注1 農林水産省ホームページ 生産局 園芸作物(野菜・果樹・花き) 花き振興コーナー  
花き産業振興方針 参考資料 50P、59P

URL: <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/hosin09/pdf/shir51.pdf>

### 2. 実験の結果

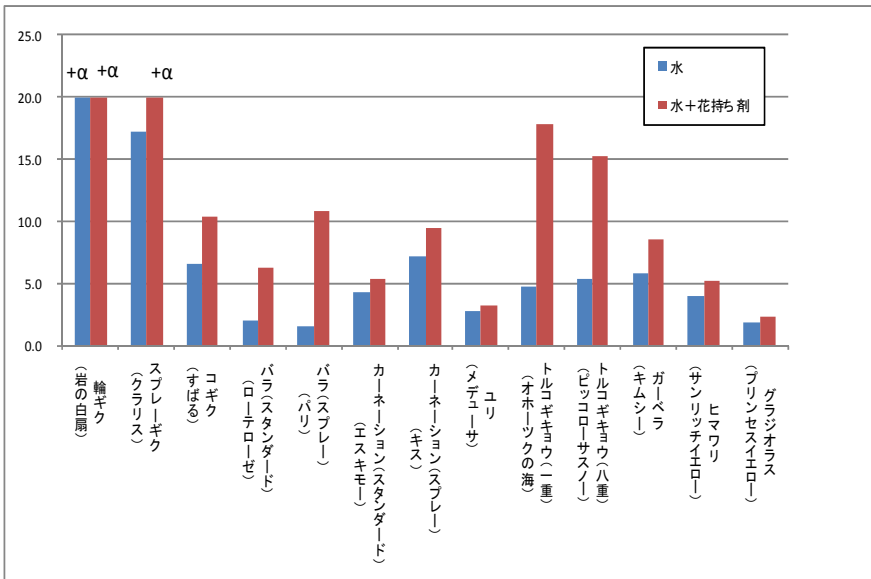
(「+α」の付いているものに関しては、20日で実験終了。よって、その後どこまで日持ちしたかは不明)

○ 春:23℃



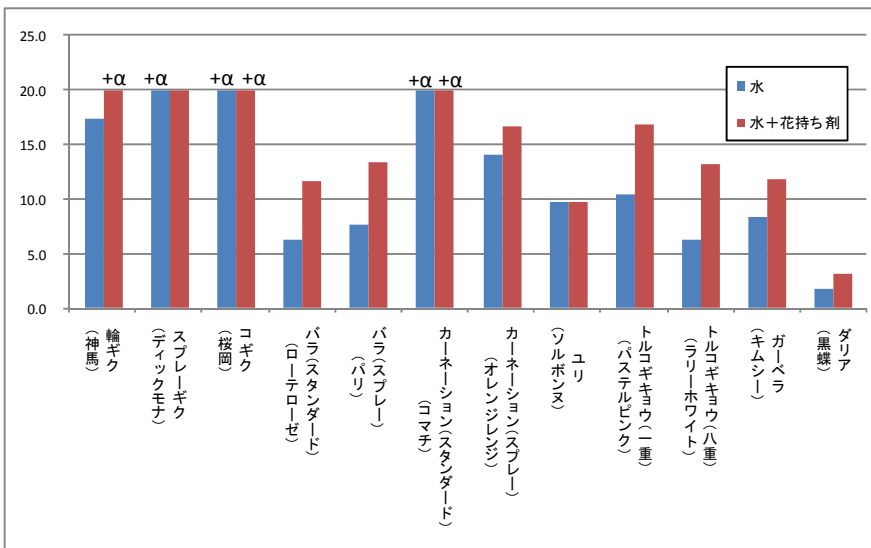
輪ギク、スプレーギク、カーネーション(スタンダード)、カーネーション(スプレー)、アルストロメリア、トルコギキョウ(八重)などは日持ちが他の品目に比べ長くなりました。花持ち剤の効果も現れています。

○ 夏:30℃



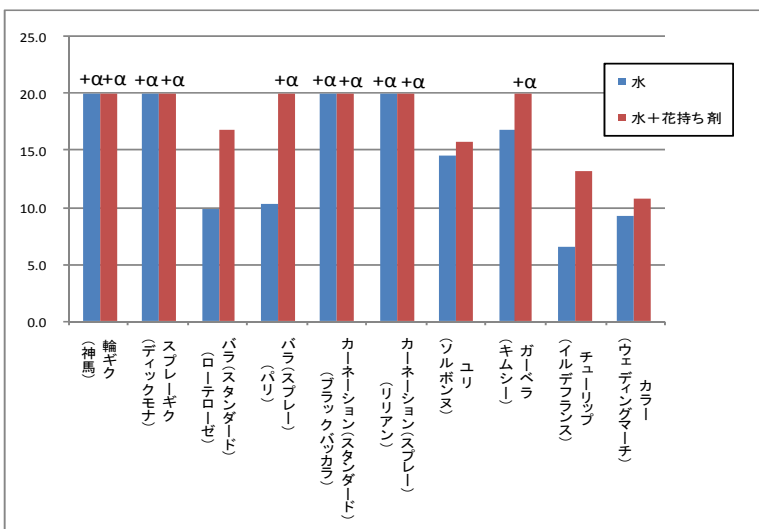
全般的に他の季節と比較して日持ちが短くなりました。しかし、その中でも輪ギク、スプレーギク、トルコギキョウ(一重・八重)は高温下においても日持ちが長いことが認められました。また、花持ち剤の効果は顕著に見られ、トルコギキョウ(一重・八重)、バラ(スタンダード・スプレー)などにおいては花持ち剤を使用することにより2倍から3倍の花持ちが認められました。

○ 秋:23℃



輪ギク、スプレーギク、カーネーション(スプレー)などは他の季節と同じく、長い日持ちが認められました。また、花持ち剤の効果は全般的に現れております。

○ 冬:15℃



他の季節に比べて全般で日持ちが長くなりました。また、花持ち剤の効果は全般的に現れております。

### 3. 実験の方法、環境設定について

#### ① 品目別実験

花き流通統計調査(農林水産省)をもとに、通年及び四季ごとに流通量の多い品目を選択しました。

(通年品目)

輪ギク、スプレーギク、コギク、バラ(スタンダード)、バラ(スプレー)、カーネーション(スタンダード)、ユリ、トルコギキョウ(八重)、トルコギキョウ(一重)、ガーベラ

(季節品目)

春: シャクヤク、アルストロメリア、チューリップ、カラー、デルフィニューム

夏: グラジオラス、ヒマワリ

秋: ダリア

冬: チューリップ、カラー

- ・ スタンダード: 茎一本に一輪の花を有しているもの
- ・ スプレー: 茎一本で上部が枝分かかれし、数輪の花を有しているもの

#### ② 四季別の環境設定

日持ち実験は消費者の家庭のリビングルームに飾ることを念頭に条件を設定いたしました。

(環境条件)

- ・ 温度 春・秋=室温23℃、夏=室温30℃、冬=室温15℃
- ・ 湿度 70%
- ・ 光強度 約600ルクス(蛍光灯程度)
- ・ 日照時間 1日あたり12時間

#### ③ 消費者購入時における採花からの経過時間

切り花の通常の市場流通を実験結果に反映させるため、

- ・ 生産者保管(採花から出荷) 1日
- ・ 輸送・市場内保管 1日
- ・ 陳列期間(花屋店頭) 2日

とし、採花から購入するまでの時間を4日間と想定いたしました。

#### ④ 品目毎の採花から花屋店頭までの保管・輸送温度等の設定について

切り花は品目により採花後の管理方法(保管温度、薬剤処理、水上げ等)や適した輸送方法(湿式・乾式・輸送温度)が異なります。

このため、今西英雄「切花の生理特性の類型化に基づく品質保持技術の開発(平成11年3月)」、市村一雄「新規品質保持剤利用による切り花バケツ流通システムの確立(平成19年3月)」などを参考に、品目ごとに適正と考えられる管理・輸送温度を設定いたしました。

品目	生産者保管(24H)		輸送・市場内保管(24H)	
	温度	前処理	温度	方法
バラ(スタンダード)	5℃	水のみ	15℃	湿式
バラ(スプレー)				
トルコギキョウ(八重)	15℃	水のみ	15℃	湿式
トルコギキョウ(一重)				
カーネーション(スタンダード)	10℃	STS処理	10℃	乾式
カーネーション(スプレー)				
デルフィニューム				
アルストロメリア				
カラー				
チューリップ				
ガーベラ	15℃	水のみ	15℃	乾式
ダリア				
シャクヤク				
輪キク	23℃	水のみ	23℃	乾式
スプレーギク				
コギク				
ヒマワリ				
グラジオラス				
ユリ	5℃	水のみ	5℃	乾式

※ 湿式：バケツ等により切り花の切り口が常に水などに浸してある状態のもの

※ 乾式：切り花の切り口に何も付けず、乾燥状態になっているもの

※ STS 処理：採花後、STS溶液(チオ硫酸銀)に浸けて行う処理。植物の老化に作用するエチレンの生合成を妨げることが出来る。これにより観賞期間を長くすることが出来る。

#### ⑤ 消費者における観賞期間時の花瓶の中身について

花瓶の中身については、日持ちへの影響が大きいと思われる「花持ち剤」の効果を調べるため下記の2つで比較いたしました。なお、切り口の切り戻しは実験前の一度のみです。

(イ) 水のみ 5日に一度水を取り換え

(ロ) 花持ち剤 中身は取り換えず、同じ濃度の花持ち剤溶液を継ぎ足し

(1%グルコース、0.5mL/L レジェンド MK、50mg/L 硫酸アルミニウム)

#### 4. 観賞期間の基準

日持ち実験で検証している観賞期間の基準は「切り花の日持ち評価レファレンステストマニュアル」を利用しました。レファレンステストとは、一定の保持環境と品質評価基準で切り花の日持ちを評価することで、潜在的な日持ち(日持ち性)を数値化するテストです。オランダでは広く実施されております。

※ 「切り花の日持ち評価レファレンステストマニュアル」

(平成18年3月花卉生産流通システム研究会)

HP はこちら [http://www.jfpc.or.jp/reference\\_test/](http://www.jfpc.or.jp/reference_test/)

(最後に)

以上、一般家庭のリビングルームを想定した切り花の日持ち日数の実験結果をご報告しましたが、この結果はあくまで一つの目安です。花の日持ちは、品種や産地で異なりますし、生産、流通、小売りの各段階における取り扱いによっても大きく変化します。消費者が魅力ある花を少しでも長く楽しんでいただけるよう、関係者の皆様のより一層のご努力をお願いいたします。

